

KAWASAKI しんゆり映画祭 2020・運営方針

1 基本目標

○ 昨年の映画「主戦場」上映取り止めをめぐる一連の事態を教訓として、映画祭の組織運営体制を抜本的に見直すとともに、事業の規模・内容について再構築を図ります。また、地域とのつながりを重視し、地域に根ざして様々な活動を行う団体・事業者等との協力・連携を深め、地域の活性化と文化的な魅力発信に貢献します。

○ 映画祭の企画・運営は、市民(みんな)がボランティアとして主体的に行うことを基本とします。市民スタッフとして参加するボランティアは、担い手に求められる責任を果たしながら行動し、映画祭をともに創りあげます。

○ こうした取組により、すべての市民・映画関係者からの信頼を取り戻し、映画を創る人・観る人・観せる人が喜びと楽しさ、感動を分かち合える、新生・「KAWASAKI しんゆり映画祭」を実現します。

2 目標達成に向けた事業展開

(1) 既存事業の再構築

○ 映画祭事業の柱は、秋の「映画祭」(本祭)・「ジュニア向け事業」・「野外上映会」とします。

○ 「ジュニア映画制作ワークショップ」については、2021年以降の再開に向けた運営体制を整えることとし、「ジュニア向け事業」として本祭での関連上映会などを試行します。

(2) 映画祭規模の見直しとバリアフリー上映の充実

○ 本祭は、これまでの運営状況等を踏まえて規模の見直しを図ります。

○ 作品上映に当っては、副音声ガイド付・日本語字幕付や保育サービス付などのバリアフリー上映に取り組むとともに、バリアフリー映画の新システムへの対応についても検討し、誰もが気軽に映画を劇場で楽しめる環境づくりに努めます。

(3) (仮称)映画「主戦場」上映取り止め問題関連プログラムの開催

○ 映画「主戦場」上映取り止め問題を参加者とともに振り返り、映画祭再生に向けて取り組むためのプログラムを開催します。

3 目標達成に向けた組織運営

(1) 公正で開かれた組織運営体制の確立

○組織運営の公正性や透明性を高めるため、従前の体制に替えて、「実行委員会(構成:実行委員長・副委員長・委員)」を新たに設け、その下に部門別の「セクション」を置くこととします。

○実行委員会は、合議制による意思決定機関と位置付け、映画祭の組織運営に関する基本事項を統括し、このうち特に重要な事項については、全体会で意見集約のうえ、NPO 法人 KAWASAKI アーツ理事会(以下「法人理事会」という。)から必要な助言等を得るものとします。構成員の具体的な選任方法等については、別に定めます。

○映画祭の運営において専門的な知見を得るため、必要に応じて「(仮称)アドバイザー」を設けます。

○映画祭運営に伴うリスク管理の重要性を踏まえ、関連マニュアルの作成や他事例の調査研究を行うとともに、関係団体・専門家とのネットワークづくりなどに取り組みます。

○映画祭の活動を発信するため、ツイッター・ブログなど SNS ツールを活用した宣伝・広報活動の充実に向けて取り組みます。

(2) 市民スタッフの計画的な育成・確保

○映画祭を担う人づくりとマンパワーの向上を図るため、研修会の開催やセクションの運営方法・役割分担の工夫などにより、実務を担う市民スタッフを計画的に育成・確保します。

○組織内の情報連絡の改善を図るため、新たなツールを工夫するなどして、スタッフ全体の情報共有や意思疎通の円滑化に努めます。

(3) 安定的な資金調達による財務基盤の強化

○映画祭収入の大きな割合を占める公的助成(補助金)とは別に、映画祭の自主性・自立性の向上と安定した組織運営を目指し、法人理事会との連携を一層密にして寄付金・協賛などの自主財源の増収を図ります。

○資金調達の多様化を図るため、個人・団体・法人に資金面で応援してもらう「(仮称)サポーター制度」の導入や SNS ツールを活用した財源確保策などを検討し、可能なものから具体化に努めます。